

特集 #niceatsugiと地方創生

共に創る未来のあつぎ

これから先も厚木が活力あるまちであり続けるためには、魅力を発信し、地域への愛着を多くの人に持ってもらうことが大切です。情報を伝える重要性や私たち一人一人にできることを、自治体・地域政策を研究する牧瀬稔先生に伺いました。

まちへの愛着が地域を活性化

戦後から社会が成熟してある程度安心して生きられるようになった現代、社会問題は多様化し、行政だけでは対応が立ち行かない時代がやってきます。今後は住民や企業、大学などと一緒にまちづくりをしていく必要があります。特に「地方創生」の実現、つまり人口減少の克服と地域経済の活性化は喫緊の課題です。

地域が元気であり続けるためには、住む人がシビックプライド（まちへの愛着や誇り、自負心）を持つことが第一歩です。シビックプライドが高い地域ほどUターンが多い、生活の満足度が高いなどの研究結果が出ており、まちのファンを増やすことが地域活性化

の種となり得ることが分かります。

情報の「共有」から「共感」へ

「#niceatsugi」は、市の情報を共有し、知る人や愛着を持つ人を増やす良い手段です。活力あるまちには「シビックプライド」を持ち、地域づくりに活動する人（活動人口）が不可欠ですが、まずは多くの人にまちの魅力を知らせてもらうことが、活動人口を増やす入り口になります。

住民に市の魅力、ひいては課題や目標が共有され、口コミなどで広がれば、ゆくゆくは共感に変わり、市と同じ課題を見つめ、解決に向けて取り組みきつかけになります。共感する市民が増えれば、行政と「共創」でまちづく

「共創」のまちを目指して

「行政と一緒にまちづくりをしましょう」というのは、ほとんどの人にとってはハードルが高いものだと思います。しかし、快適に暮らし続けるには人口減少を和らげる必要があります。そのためには行政と住民の共創が不可欠です。

まずはハッシュタグを使って、簡単にできる「共有」から始めてみるのが良いかもしれません。そして徐々に時間と移動が必要なイベント参加や、もっとできそうなら市民協働提案事業と、自分にもできることを考えてみてほしいと思います。



牧瀬 稔 さん (48)

【プロフィール】 関東学院大学法学部准教授。市自治基本条例推進委員長などを務める。専門は自治体政策学、地域政策。

共創へのステップ

さまざまな自治体の取り組みを見ていると、「共創」に一足飛びで進もうとしているように見える事例があります。「共感」がなければ「共創」はなく、「共感」のためには「共有」が必要です。まずは簡単にできることから始めてみてはいかがでしょうか。

(牧瀬先生)

STEP1 共有

情報を多くの人に伝える

- SNSで#niceatsugiを使い情報発信
- 友人などに地域の魅力を話す

STEP2 共感

魅力や課題などを深く知る

- 地域のイベントに足を運ぶ
- 直接見聞きして、魅力や課題を知る

STEP3 共創

愛着を持ちまちづくりに参画

- 自分たちの地域を良くするために行動に移す
- 行政と協働でまちづくりに取り組む

明るく楽しい地下道のフェスティバル

11月
12・13日

CHiKaフェス2022

#niceatsugiパーティ

《場所》 本厚木駅前東口地下道

あつき 元気Wave
11/1~CATVで放送

地下道がにぎやかな空間に変わる「CHiKaフェス」を3年ぶりに開催します。今年は「#niceatsugiパーティ」も仲間入り。楽しい地下に遊びに来ませんか。

☎企画政策課 ☎225-2450



■厚木ハンドメイドマーケット



手作り雑貨の販売会、子ども向けのワークショップなど

■けん玉教室



初心者から上級者まで楽しめるけん玉教室

■#niceatsugiパーティ



#niceatsugiユーザーが集うパーティー。フォトスポットやブースで交流できる

- 巨大フォトスポット
- 交流ブース
- 展示・休憩スペース

■障がい者手作り製品即売会



バッグなどの織物やあゆコロちゃんグッズなど、手作り製品の即売会

■ラジコン広場



カメラを付けた小型ラジコンの操作や、ドローン体験など



他にも大道芸人のパフォーマンスやアートなど、催しが盛りだくさん